

ひと

「和風建築」の腕を磨く

技能グランプリ大工の部で3年連続
入賞したボラスハウジング協同組合 東吉雄一さん



2年に一度開催される技能士が熟練の技能を競う「技能グランプリ」の建築大工の部で、銅賞を獲得した。自身、3年連続の入賞を果たした上、総勢4人を送り込んだボラスグループにも、5大会連続の入賞記

録更新をもたらす大きな貢献をした。

「大工をしている父親の仕事場で、幼い頃から手伝いをしながら育った。既に保育園児の頃には大工になることを決めていた」という。高校卒業時、同グループが募集していた大工の求人を見て入社を決めた。

厚生労働省など3機関が共催する同グランプリは、技能の向上、技能士の地位

向上、技能尊重気運の醸成に資するのが目的。2月に4日間にわたって静岡市で開催された29回目の今大会には、全国から建築大工のほか機械組み立て、旋盤、かわらぶき、和裁、日本料理といった全30職種、総勢514人の技能士がエントリー。大工部門は、「正六角形小屋組」の課題で43人が腕を競った。

受賞作品について、「練習のほつが上手にできていた。部材のかけ、隙間などが目立ってしまった」と、銅賞にも納得のいかない様子だ。

「再び大会に出場して、今度は金メダルをとり、現場で磨いた技術を生かしていきたい」と、早くも2年後に照準を定めている。

「自分のやりたい仕事は、和風住宅の仕事。そついった仕事をしている大工との関わりを深め、現場での勉強に努めたい。まだまだ作業の効率アップとスピードアップが必要」と自分の課題点を振り返る。

訓練生からフリーミング工事、セットアップパー工事、5年目からは造作の見習いになり、現在は朝8時から夜6時まで、現場での造作工事に追われる毎日をごす。早くも2年後に向けたりベンジの思いが、心の中に沸き上がっている。

(市川佳之)